

[講演要旨]

# 1700 年対馬東水道の地震と 1872 年浜田地震の震源断層について

松浦律子\*(ADEP)・中村 操(防災情報サービス)

## §1. はじめに

既にこれまでの解析結果一覧表を「歴史地震」に報告として掲載したが、従来の総覧震央と異なる点が活断層評価に関わり得る場合に関して、最近の史料まで含めて再度作図した。今回は西日本の日本海側の 2 地震を取り上げるが結論は変更ない。

## §2. 1700 年対馬東水道の地震

1700 年 4 月 15 日午前 9 時頃に、壱岐・対馬が珍しく地震被害を受けた。大分市や佐賀市で有感、博多で屋外に人が飛び出す揺れ、さらに福岡でも複数有感余震があり、『松浦家世伝』では平戸や壱岐で家屋破損、別史料からも対馬では相当な規模で石垣や塀の崩落など震度 5 以上の被害が発生している。現在の総覧の震央は相当壱岐島に近いが、被害や揺れの強さの分布状況からは、壱岐だけでなく対馬や平戸にもある程度近く、かといってこの 3 地域の何れも震源直近ではない浅い震源と推定される(図 1)。既に平成 18 年度に震源域候補を発表したが、当時は海域活断層の情報は新日活の付図程度しか利用できなかった。今回拾遺 5 巻までの刊行史料や、壱岐の一次史料に加えて、日本海 PJ による構造探査結果も参照して補強した。尚、総覧にある広島に加計での有感は、既刊史料集には見当たらないので図示していない。

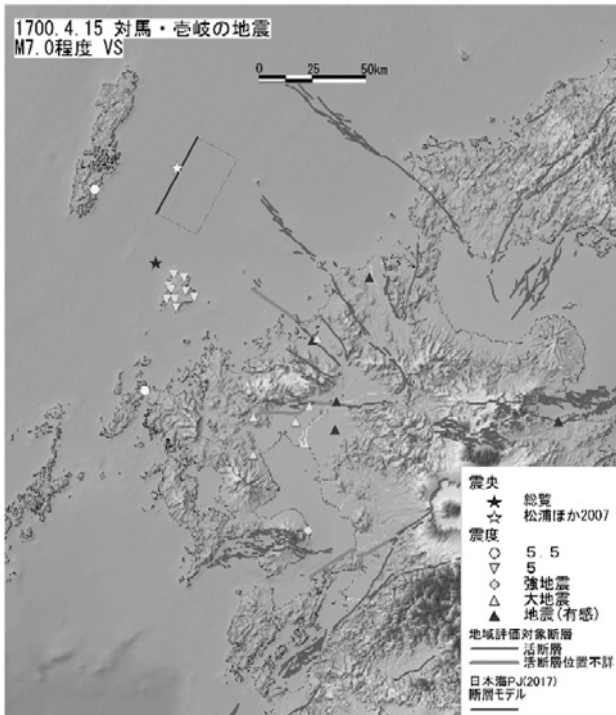


図 1. 1700 年元禄対馬・壱岐の地震の震度分布

## §3. 1872 年明治浜田地震

1872 年 3 月 14 日(明治 5 年二月六日)夕方に島根県浜田市を中心に発生した被害地震である。この地震は幕府の長州征伐への反撃以降長州藩が実効支配したまま維新を迎えた浜田県が被害の中心地である。行政区や人口が定まらない混沌期に発生した点、地震前から困窮士族の反乱防止のため浜田県で失業対策実施予定だったのを地震被害の救恤金に転換したため、被害実態より困窮度ではばまいた点、明治庄内地震の恩賜金分配の様な精緻な記録がなく帳簿上 72 両以上不明、などの事情から一貫性のある「被害率」を出すのが困難な地震だった。総覧では人口比を示すが人口不明の集落も多い。平成 13 年度には明治初期(と言っても地震後)の戸数と被害戸数から求めた震度を中心に解析したが、史料中の誤字がその後解明できた地点を加えるなどした震度分布図が図 2 である。既に衰退しつつあった石見銀山周辺の大震度は、山崩れで増幅した被害率、あるいは誘発地震があったか、と推定されるほど、浜田市の震源域特有の被害集中箇所から一旦途切れて連続しない。

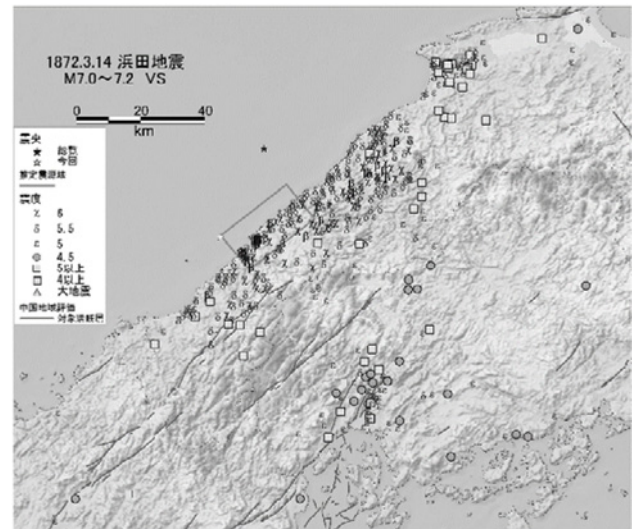


図 2. 1872 年浜田地震の震度分布

## §4. まとめ

1700 年壱岐・対馬の地震は従来より対馬や朝鮮半島寄りで日本海 PJ が対馬の東水道に設定している断層モデルが震源域と推定されるが規模はモデルより小さい。1872 年浜田地震本震は浜田市直下と沿岸部が震源域で、総覧の沖合震央では遠すぎる。図中の震源値は 35 号の報告を参照して欲しい。

文部科学省からの委託事業である「地震調査研究推進本部の評価等支援事業」の一部として実施した。